

屋島の地質

屋島はメサ、つまり全体が急斜面の崖に囲まれた頂上が平らな山です。その異様な形は、およそ1400万年前にこの地で起こった火山活動によるものです。それ以前、現在の屋島は高い山々に覆われた谷で、それら山々の中には火山がありました。それら火山のひとつが噴火し、溶岩が谷に放たれて、谷は溶岩で覆われました。この溶岩が固まり、サヌカイト（香川県の昔の名称「讃岐国」にちなんで命名）という極めて硬い独特な黒い岩になりました。何百万年以上の期間にわたって、サヌカイトで覆われた谷の周りにあった花崗岩の山々は風雨によって侵食されました。そして、地形の最も低い部分が最終的には最も高い地点になりました。サヌカイトがもともと花崗岩質であった谷を風雨から守り、屋島を現在私たちが目にする孤高のメサへと変えました。この地を訪れた人は、屋島の複数の遊歩道に沿って、この山が火山によって形成された証拠をあちこちで見つけることができます。滑らかなサヌカイトの層と岩の節理（水平方向の割れ目）は、北嶺を周回する遊歩道に沿って、さらには山の麓から屋島寺に通じる小道近くのいくつかの場所で観察できます。